

- 4月の米個人消費支出の伸びは前月比で市場予想を下回った。実質個人消費支出は市場予想に反し、3ヵ月ぶりに減少した。個人所得は前月から伸びが鈍化。貯蓄率は昨年1月以降の最低水準に並んだ。
- PCE統計から所得の伸びが鈍化するなか、実質消費支出は減少するなど、米個人消費にはややかげりがみられる。貯蓄率は低水準にとどまっており、今後の個人消費の動向に注視が必要。

実質個人消費支出は予想に反し、3ヵ月ぶりに減少

5月31日に発表された4月の米個人消費支出（PCE）は前月比+0.2%と、市場予想の同+0.3%（ブルームバーグ集計。以下、同じ。）を下回り、前月の同+0.7%から伸びが大幅に鈍化しました。前月の伸びは、昨年2月以降で最高の伸びとなった前々月と同じでした。実質*PCEは同-0.1%と、同+0.1%との市場予想に反し、3ヵ月ぶりに減少しました。

*物価上昇の影響を除いたベース

実質PCEの内訳をみると、「モノ（財）」は同-0.4%と、2ヵ月ぶりに減少しました。「サービス」は同+0.1%と、昨年9月以降で最低の伸びでした。

個人所得は同+0.3%と、前月の同+0.5%から伸びが鈍化しました。このほか、貯蓄率は3.6%と、昨年1月以降の最低水準に並びました。

物価指標の鈍化傾向には一服の動きも

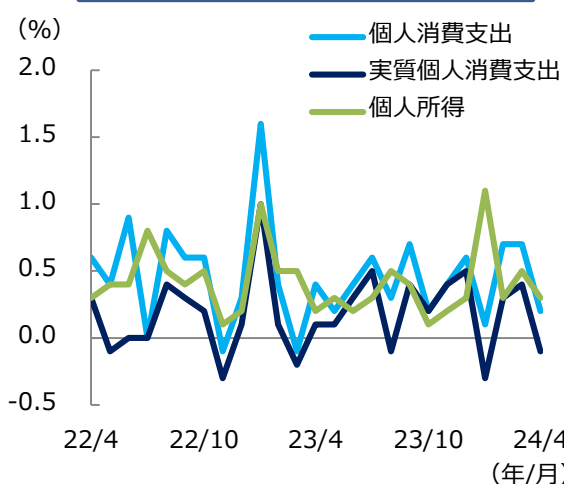
米連邦準備理事会（FRB）が物価指標として参照するPCE価格指数は前年同月比+2.7%と、前月と伸びは同水準でした。今年1月と2月には同+2.5%と、2021年2月以来、3年ぶりの水準へ低下していました。

このうち、振れの大きい食品とエネルギーを除いたコアPCE価格指数は同+2.8%と、同年3月以来、約3年ぶりの低さとなった前々月、および前月と同水準にとどまりました。PCE価格指数、コアPCE価格指数ともに伸びは市場予想と同水準でした。

PCE統計から、所得の伸びが鈍化するなか、実質消費支出は減少するなど、米個人消費にはややかげりがみられます。また、物価指標の鈍化傾向に一服の動きがみられるなか、貯蓄率は低水準にとどまっており、低所得層を中心に貯蓄を取り崩して消費に回す様子がうかがえます。

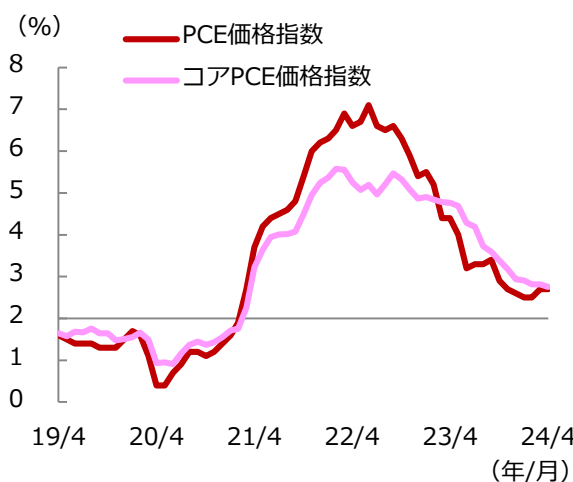
こうしたことから、今後の米個人消費の動向に注視が必要です。

米個人消費支出と個人所得の推移



※期間：2022年4月～2024年4月（月次）
前月比、季節調整済み

米PCE価格指数の推移



※期間：2019年4月～2024年4月（月次）
前年同月比

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去の情報および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。